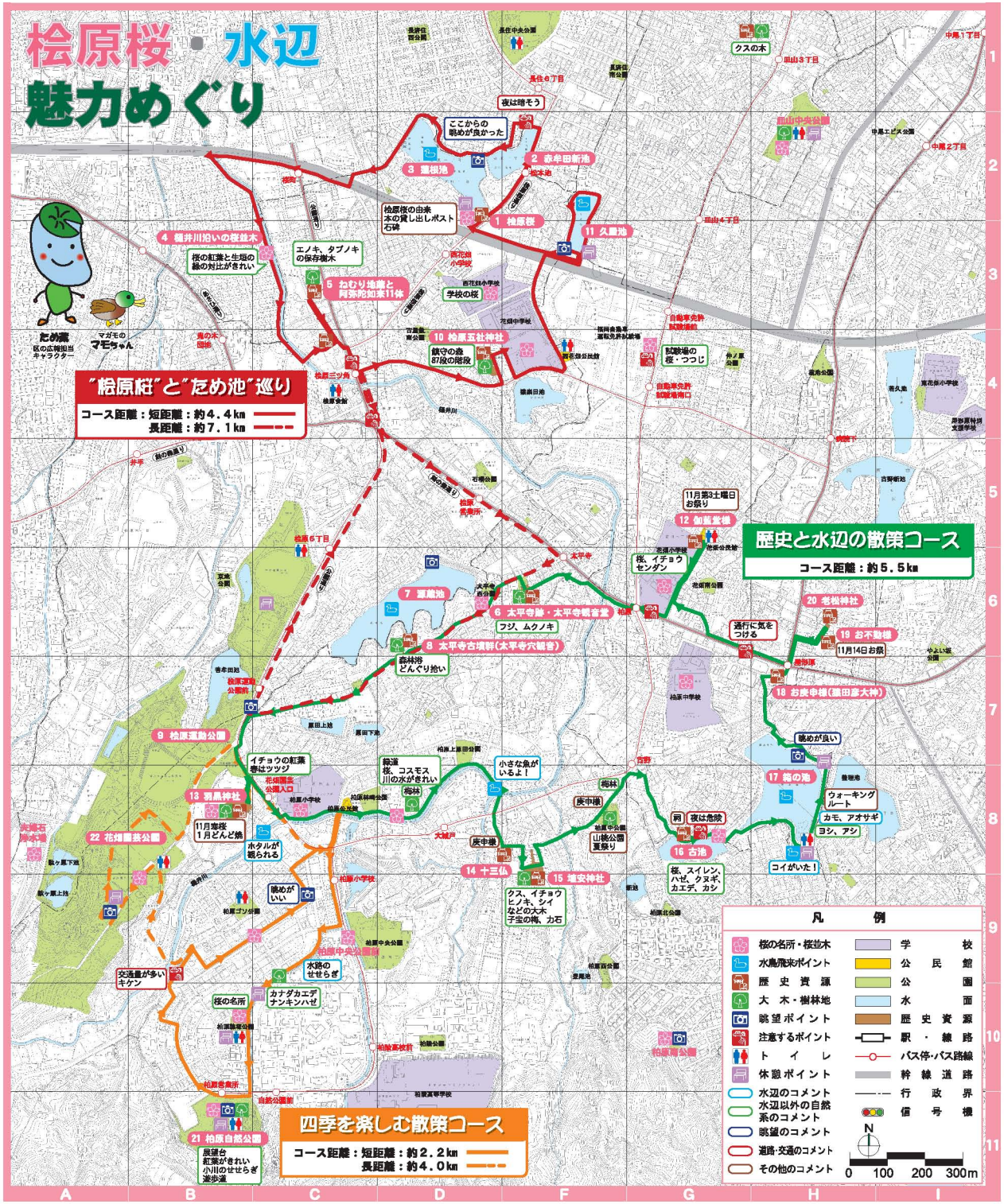
桧原桜・水辺 魅力めぐり



1 桧原桜 ◎D2

蓮根池の南東に桧原桜があり、現在は、公園として整備され、13本の桧原桜が満開と咲き誇けています。桧原桜の石碑のそばには、桜並木を守った方が書かれた本「花かげの物語」が入ったポストがあり、桧原桜の物語を知ることができます。また、ポストの裏には、「一片が我が人生か花吹雪」という俳句が記されています。

2 赤牟田新池 ◎F2

地元の方によれば、通称「新池」と呼ばれているそうです。「赤牟田」という名前は、周辺の山からの金気（鉄分）を含んだ赤い水が流れ込んできていたので、そこから名づけられたのではないかということです。また、「牟田」というのは、「湿地」を意味しているということです。

3 蓮根池 ◎D2

蓮根池は、もともと「赤牟田池」と呼ばれていました。地元の方によれば、この池は一番深いところでも10mもなく、魚がよく育っていたそうで、コイ、フナ、ウナギがよく捕れていたそうです。昔、浅瀬のところにはハスがたくさん茂っていたそうで、蓮根も採れていたということです。

4 樋井川沿いの桜並木 ◎C3

昔、川の上に長い樋をかけて川向かいの水をとり、灌漑していたことから樋井川と名づけられたそうです。油山に源を発し、支流の鳥飼川、七隈川をあわせ博多湾に注ぐ全長12.9kmの2級河川です。樋井川沿いには、桜並木が続き、春には人々の目を楽しませてくれます。

5 ねむり地蔵と阿弥陀如来11体 ◎C3

桧原2丁目住宅地の一角に、小型板碑、虚空蔵菩薩で鎌倉時代の作と思われる「ねむり地蔵と阿弥陀如来11体」が祭っております。また、安永10年頃に作られた庚申様（石こう岩作り）も安置されていますが詳しい由来は不明です。かたわらには、エノキとタブノキの大木（市の保存樹）もあり、まちの歴史を感じさせる場所となっています。

6 大平寺跡・大平寺観音堂 ◎F6

大平寺東公園には、大平寺跡があり、樹齢数100年といわれるムク、クス、フジ（保存樹木）にかこまれて、室町時代の阿弥陀如来の石仏と板碑や、地元の有志によって建てられた大平寺観音堂があります。太平寺は、福岡藩の藩者貝原益軒の「筑前国続風土記」に、「千葉城跡の麓に依の寺なりし故むかしは大寺なりしとかや」と記されています。

7 源蔵池 ◎D6

源蔵池は、入江が幾重にも重なり合って風情があり、東側の土手からの眺めは、油山を背景にした最高の眺めです。地元の方によれば、昔、近くに住んでいた源蔵という名前の子がおぼれて亡くなり、冥福を祈る意味で、池の名前がつけられたのではないかということです。また、この池は水深が多くヒシの実がよくとれていて、ウナギやコイなどもたくさんいたそうです。

8 太平寺古墳群（大平寺穴観音） ◎D6

太平寺古墳群は、源蔵池東側の太平寺緑地内にあり、7基からなる古墳群です。そのうち4基の円墳の墳丘が明瞭で、うち1基は横穴式石室が開口しており、現在、太平寺穴観音として、地域の人たちによって祭られています。

9 桧原運動公園 ◎B7

市南部地区のスポーツ・レクリエーション活動の拠点として、平成5年度に開園しました。テニスコート、多目的広場、わんぱく広場などがある運動公園です。地域住民が身軽に運動を楽しめる「健康づくりと憩いの場」として親しまれており、わんぱく広場では、元気に遊ぶ子どもたちの歓声が絶えません。

10 桧原五社神社 ◎D4

御祭神は、住吉神社、春日神社、志賀神社、神宮皇后、玉依姫命で、以上をもって五社神社といいます。由緒は不詳であり、境内346坪、神社社地3,900坪となっています。明治5年11月3日に村社になっています。現在の社殿は、平成12年12月に完成したものです。周囲は木々に囲まれ、鎮守の森として地元の人々に慕われています。

11 久屋池 ◎F3

平成21年度にため池整備が行われ、池の周囲に遊歩道が設置され、周辺住民の憩いの場となっています。池の水源は、近くの小高い山の水を集めたものだそうです。昔は、春先に小さなコイやフナを池の中に入れて、稲の収穫が終わると水を落とし、網を張って成長したコイなどを取って食べていたそうです。

12 伽藍堂様 ◎G5

五輪塔などが、花畑小学校の北側、花畑公民館の向かいにあり、地元の人々から伽藍堂様と呼ばれあがめられています。小学校の子ども達からも親しまれ花のお供えが絶えたことがありません。また、以前、桧原交差点にエノキの大木と一緒にあった石仏も、台風によりこのエノキが倒木したことで、この地で一緒に祭られています。

13 羽黒神社 ◎B8

中世の頃、出羽羽黒山より勧請され、江戸時代には、福岡藩主の深い信仰を受け、無病息災、家内繁栄、五穀豊穣の祈祷所でもありました。現在の社殿は昭和55年に再建されたものです。正月三が日は1万人の初詣でにぎわい、また、1月7日のほんげんぎょうには、近郊から、多数の善男善女がお参りされています。

14 十三仏 ◎F8

十三仏とは、不動明王、釈迦如来、文殊菩薩、普賢菩薩、地蔵菩薩、弥勒菩薩、薬師如来、観音菩薩、勢至菩薩、阿弥陀如来、阿閦如来、大日如来、虚空蔵菩薩です。平安時代に中国から伝来し、室町時代に信仰され、江戸時代以降に建てられたものと思われます。

15 埴安神社 ◎F9

埴安神社は、早良郡樋井川村大字柏原の産神。（樋井川村は昭和4年に福岡市と合併）29の石段上に鳥居と常夜燈があり、安永2年（1773年）建立とあります。神殿は、四十塚山の御影石の1枚岩で壁、屋根が張られ、三段の石組みで高さ90cmの台座の上に鎮座されています。また、鳥居のかたわらには、双子や三つ子の実をつける「子宝の梅」や「力石」があります。

16 古池 ◎G8

古池と箱の池、新池は土管で結ばれていて、以前は毎年6月25日までに古池から箱の池へと水を入れる習わしだったそうです。あるとき、土管に1匹のたぬきが迷い込みました。村人は、杉の葉の煙を土管に送り込み、たぬきをいぶし出し、出て来たたぬきはあわれにもたぬき汁になった、という昔話も残っています。

17 箱の池 ◎H8

箱の池は、昔から農業用水として使用されており、今も昔の風情を残しています。用水路は遠く若久方面まで続いているといわれています。池の水面にカモやユリカモメが、季節折々にやってきて目を楽しませてくれます。「緑水ため池整備事業」で池の周囲にウォーキングロードなどが整備され、平成18年から住民憩いの場として利用されています。

18 お庚申様（猿田彦大神） ◎H7

お庚申様（猿田彦大神）は、日本神話に登場する神であり、その昔、天孫降臨の際に道案内をしたとされ、道の神として、この地に祭られています。昔は農家10戸程が庚申の日の夜に集まり、手作りのご馳走を持ち寄り食べ、ふれあいを深めたということです。

19 お不動様 ◎H6

老松神社の南側参道の石段を数段上った右側に小さな御堂があり、不動明王の木像が安置されています。「花畑名所図鑑」には、「黒光りする60cm程の小形の立像であるが出来映えは優秀。いつの日か一人の修験者が当地に留まって刻んでいったと伝えられる。」と記されています。毎年11月14日には秋祭りが行なわれています。

20 老松神社 ◎H6

老松神社の御祭神は菅原神・高良玉垂命です。社誌に「由緒は不詳、明治5年村社、例祭日10月15日、建造物、神殿、拝殿、境内地1,389坪、氏子戸数49戸、境内神社、日吉神社」とあります。左の常夜燈は安政4年の奉献。石段を上がれば鳥居があり、右の柱には昭和4年、左の柱には昇格記念とあります。

21 柏原自然公園 ◎B11

南区の端にある4.7haの広い公園には、「いこいの森ゾーン」・「せせらぎゾーン」・「わんぱくゾーン」と展望台があります。春には新緑が香り、夏には近郊はもちろん遠方からも親子づれで水遊びにたくさんの人が訪れます。秋には、紅葉が美しく人々の目を楽しませてくれます。

22 花畑園芸公園 ◎B8

花とフルーツの園芸公園です。四季折々に花や果物を観賞することができ、特に、桜や紅葉の時期には花壇広場がにぎわっています。公園総面積14.7haの中に、芝生広場、催し広場、嗅水広場などがあり、夏から秋の収穫期には様々な果物（モモ、ナシ、カキ等）が収穫され、さらに「みかん狩り」や「園芸まつり」など多彩な催しが行われます。